マニフェスト

photosynthesis(フォトシンセシス): 光合成

光による生きるために必要な物の創出。 私たちは写真にもその力があると信じます。 写真や他のメディア(映像・美術・ボディワーク)とのシンセシスによって 新しいものを造り出せればと思います。 3.11によって再認識したことは、記憶と身体だと思います。 記憶の引き出しとなったのは、津波で流されたアルバム写真であり、 何気ない日常のスナップ写真であり、ありふれた街の風景写真でした。 今、写真の本質とも言える記録性をどう表現することが出来るか? 身体については、地震、津波からの避難、続く余震、被災地での生活、 原発事故による放射能汚染、都市での震災時の帰宅困難、計画停電など。 科学技術と合理主義の文明の影に隠れていた身体を再認識するための 表現とはなんなのか? 写真と身体がGallery Photo/synthesisのテーマです。 それを考え、表現するために、展示だけではなく、パフォーマンス、 トークショウ、ワークショップなど、横断的な表現の場として 展開していきます。 また、海外の作家も含め、見落とされがちな作業を 発掘出来ればと考えています。 2014年8月1日

Manifesto

Photosynthesis: Creating vital things for life caused by lights.

We believe photographs also have such power. We try to make innovative things by synthesizing photographs and other medias (movies, fine arts, performances). The important thing we recognized anew by 3.11 is "memory and body". What triggers people's memories are photographs in albums washed away by Tsunami, daily snapshots which are taken unintentionally, and scenery of the cities what they used to be in photographs. How can we now express recordability, which is not too much to say essence of photographs? What is expression for re-recognizing bodies, which are hidden by civilization constructed by science and technology, and rationalism? Occurrence like Earthquakes, refuge from Tsunami, fitful aftershocks, life in disaster stricken area, radioactive contamination caused by accident at a nuclear power generation plant, difficulty coming home in big cities when big earthquake occurs, and planned power outage always remind us of these questions. The theme of the gallery is "Photograph and Body". To think about and to express it, not only exhibitions but also performances, talkshows and workshops will be held as a place for Cross-Cutting expressions. And we also try to find works of creators which are tend to be overlooked, include those of foreign creators. (Translation by Shusuke Ogawa)

Gallery Photo/synthesis OPEN! (youtube)

https://www.youtube.com/watch?v=4zAEVagmfcY

Gallery Photo/synthesis was established on August 1, 2014 at Yotsuya, Tokyo. Here are the works of the members!

Gallery Photo/synthesis 閉廊 資料集



[Tsutomu Otsuka] [Jun Hiraga] [Miyako Murata] [Motohiro Goto]



2014年8月1日、四谷四丁目にオープン。 メンバー4人(平賀淳・大塚勉・後藤元洋・村田都)が運営する インディペンデントギャラリー。平均年齢、55歳。

「写真」と「身体」がGallery Photo/synthesisのテーマです。 写真というメディアを中心に、映像、美術、ボディワークなど横断的 展示を展開、トークショウ、ワークショップなどのイヴェントも開催し、 オルタナティブなスペースとして活動していきます。 2014年8月1日

> A new gallery is opened on 1st of August, 2014. Called "Gallery Photo/synthesis".

It is an independent gallery owned by 4 members (Jun Hiraga, Tsutomu Otsuka, Motohiro Goto, Miyako Murata), whose average ages are 55.

The theme of the gallery is "Photograph and Body".

We exhibit mainly work of photographs, but also exhibit Cross-Cutting works, like photographs and movies, fine arts or performances.

Talk shows and workshops will also be held at the gallery, we intend this gallery will become alternative space.

- Gallery Members -

平賀 淳(代表)・大塚 勉・後藤元洋・村田 都

·2017年6月25日閉廊·

Gallery Photo/synthesis

東京都新宿区四谷4-10 ユニヴェールビル102 tel:03-6380-1666 info@gallery-photosynthesis.com http://gallery-photosynthesis.com/

Gallery Photo/synthesis History

2014 - 2017

Gallery Photo/synthesisは2014年8月1日から2017年6月25日まで新宿区四谷4丁目のマンションの1階102号室を活動の場として、作家自身(平賀淳を代表とし大塚勉後藤元洋、村田都の4名)が企画運営を行うインディペンデントでオルタナティブなスペースで、なおかつ、コンセプトギャラリーであるという独自な展開を行う。

3.11によって再認識した、記憶と身体を核として、「写真と身体」をテーマとした3年という期間限定のコンセプトギャラリーであり、展示も、写真・映像・美術・パフォーマンスなど横断的な表現領域を、また、[トークショー][ポートフォリオレビュー][映像の実験][写真市 Photo Marche][自主ギャラリーの系譜資料展]など多岐にわたるイヴェントも開催。ギャラリー企画の[フォトフェス]では、写真、美術を通しての情報の流通、人と人の交流の場としての「Photo cafe」を試みた。

内装仕上げ工事はメンバーで行い、壁面はスタジオマン経験のあるメンバーがパテ埋め、ヤスリがけの後、スタジオホリゾント用の塗料「KANPE SW-20」を塗った。 事務所とギャラリーを隔てる壁面には1000X800mmの窓を空け脱着式パネルを設置。映像作品の上映(壁面投影&リアプロジェクション)の機能を持たせた。

WEBやデジタルメディア全盛の時代において、リアルな現実空間でのまさに身体的 経験の場として展開。たとえば、後藤や村田のインスタレーション・プロジェクション による映像・パフォーマンス・インタラクティブアート、大塚のオリジナルプリント (沼現像・銀抽出現像)、「フォトフェス」など、このギャラリーで展開した数々の展示作品

そして、なにより、作家自身が在廊し鑑賞者と直接対応するということ。 このことこそが作家自身にとっても「身体的経験の場」としての実践であった。



